

2016年度 経済学部ハイド賞

懸賞論文募集

経済学部では、1921年から1922年にかけて本塾で教鞭をとられたカナダ人教授 故ダンカン・クラーク・ハイド氏が、経済学部に託された遺志を記念し、1988年度より学生諸君の学問研鑽を奨励するために「経済学部ハイド賞」を設け、懸賞論文を募集しています。今年度の募集要項は以下のとおりです。ふるってご応募下さい。

記

テーマ：格差と差別を考える

グローバル化の進展と情報通信技術の発展は、かつて「一億総中流」と呼ばれた日本の社会経済の構造を大きく変えており、「格差社会」という言葉が定着してすでに久しい。経済的不平等に関する研究が近年世界的に注目を集めているが、階層の固定化と格差の拡大は、社会経済の活力に影響を与えるだけにとどまらない。経済力の格差は差別を生み出し、差別はまた経済力の格差を生み出し、経済の停滞期には、その矛盾は特に鋭く表出しやすい。内外の状況をみても、学歴、性、民族・人種、宗教の違いにもとづく差別が存在するし、また、旧来の制度や社会的規範が新たな社会経済状況とそぐわなくなって差別として明確に認識されるようになり、それらが経済的格差を助長することにもなっている。こうした状況をふまえて、現代の世界（ないし個別国家・地域）における「格差と差別」の諸相について、具体的なトピックをとりあげ（1つでも複数でも可）、既存の研究や言説にも言及しながら自由に論じなさい。

1. 使用言語：日本語・英語のいずれか

2. 用字・字数（枚数）および提出部数

日本語の場合：ワープロでA4判用紙に横書き、10,000～16,000字 要旨(400～800字)を添付

英語の場合：ワープロでA4判用紙に横書き、3,000～5,000語 要旨(200～300語)を添付

提出部数：6部(コピー可)

なお、日本語・英語とも上記の字数・枚数に図表及び参考文献表は含まれません。

3. 応募資格：経済学部・学部学生 単独でも複数者による共同論文でも可。

4. 締め切り：2016年12月2日（金）16:45 締め切りを過ぎての提出は一切認めません。

5. 提出先：三田・日吉 学生部 経済学部係

6. 賞：・特賞（賞金10万円）・優秀賞（賞金5万円）・努力賞（賞金2万円）合わせて5編程度

なお、各受賞論文については、経済学部ホームページおよび学内掲示板に、受賞者氏名ならびに論文題名を掲載します。

7. 発表：2017年1月下旬の予定

8. 過去の受賞論文の閲覧について

前年度受賞論文を、<http://www.econ.keio.ac.jp/>に掲示します（塾内LANでのみ閲覧可）。

9. その他

論文執筆にあたっては、学術論文の作法に関する書物を読むことを強く勧めます。

以下の教養研究センターのサイトなどを参照して下さい。

<http://lib-arts.hc.keio.ac.jp/ronbun/books.html>、<http://lib-arts.hc.keio.ac.jp/education/culture/academic.php>

応募論文はオリジナルであること、また他の懸賞論文や雑誌等に重複して応募・投稿していないものであることを条件とします。引用に当たっては出典を明記することにも留意して下さい。

応募論文は返却しません。受賞論文の著作権は経済学部に帰属します。